

## 一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会 令和7年度定時総会

2025年5月26日、標記総会がオンライン(Zoom)にて開催され、全国の臨床検査技師養成校から教育関係者らが出席した。会次第を表に示すとともに、会の概要を以下に示す。

### 日本臨床検査学教育学会学術大会

第19回大会が8月21、22日に岡山大学医学部保健学科(岡山市)で開催され、大会長は廣畑聡氏(岡山大)が務める。「臨床検査の未来に灯火を一挑戦する若手活躍の場一」をテーマに、基調講演「臨床から信頼される臨床検査技師を育てる卒前・卒後教育」、教育シンポジウム「次世代を担う若手研究者の活躍―若手の交流を深める」などのプログラムが予定されている。

来年以降は、第20回大会(2026年)は勝田仁氏

(九州大)を大会長として開催され、第21回大会(2027年)は北里大、第22回大会(2028年)は東北大で開催予定である。

### 令和7年度 臨地実習指導者講習会

講習会修了者は、これまでの累計で2,190名に達した。2025(令和7年)度の臨地実習指導者講習会は、中四国支部(7月6日)および首都圏支部(7月20日)の開催内容が日本臨床衛生検査技師会(日臨技)ホームページで公開中であり、準備中の北日本支部(8月24日)、九州支部(9月7日)、近畿支部(10月26日)、首都圏支部(12月21日)、中部圏支部(2026年1月25日)、近畿支部(2~3月)も、詳細が確定次第、公開予定であると報告された。

### 臨地実習に関する日本臨床衛生検査技師会との協議

標題に関して、以下の5つの項目が報告された。

- ① 令和6年度日本臨床検査学教育協議会の調査から得た、臨地実習施設での学生受け入れの実態を共有
- ② 臨地実習生への評価内容を見直す動き
- ③ 臨地実習時に学生が経験すべき行為
- ④ 学生と臨地実習施設のマッチングができる仕組みの検討
- ⑤ 臨地実習施設向けポスターの作成

以上のうち②では、臨地実習ガイドライン内で学生への要求レベルが高すぎるのではないかと懸念されている様式8(生理学的検査に関する評価基準書)を改善する方向である旨が説明された。また、③については、スパイロメトリーにおいて学生・患者双方の負担・負荷を軽減できるように改善し、尿沈渣検査を新たに加えて現場でより役立つ学生を育てるという日臨技の要望を活かす方向で準備を進めている旨が説明された。

### 表 会次第

1. 文部科学省：新たな評価制度に関する説明、質疑応答
2. 報告事項
  - (1) 新規加入校、校名変更校
  - (2) 第19回日本臨床検査学教育学会学術大会
  - (3) 臨地実習指導者講習会
  - (4) 臨地実習に関する日本臨床衛生検査技師会との協議
  - (5) 教科書作成に関する協力願い
  - (6) 各種委員会部会報告
  - (7) 共催行事
  - (8) その他
3. 議長及び議事録署名人選出
4. 議案審議
  - (1) 第一号議案 令和7-8年度役員
  - (2) 第二号議案 令和6年度事業経過報告
  - (3) 第三号議案 令和6年度収支決算報告
  - (4) 第四号議案 令和6年度監査報告
  - (5) 第五号議案 令和7年度事業計画案
  - (6) 第六号議案 令和7年度予算案
  - (7) 第七号議案 次期カリキュラム改正等に向けた事前調査
  - (8) 第八号議案 地区部会の区分
  - (9) その他の議案
5. 議長解任